

平成 25 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	関西学院ヒューマンサービスセンター
活動テーマ	交流イベントを通じて生み出す住民主体意識と久崎の活性化



作用町久崎地区は 2009 年に起きた台風による水害で過疎化・高齢化に伴う人口減少に拍車がかかった地域です。水害以降我々の団体は「作用町に賑わいを取り戻したい」という思いで、水害から 4 年が経った今でも毎月継続して久崎を訪れ、支援してきました。今年度は、「自然が豊富で魅力が沢山ある久崎の良さを外部の人々にも伝える」ということを目標として、外部から人を呼ぶ交流イベントを開くことを新たな試みとして取り組んできました。ターゲットを気軽に参加しやすい親子に絞り、カレー作りをメインとしてイベントを企画しました。まず、その準備段階として、休耕地をお借りして住民と一緒に土地を耕すところから始め、畑をつくりました。イベント当日は、住民に教えてもらいながら育てたじゃがいもを掘るところから始めました。普段住宅地で暮らす子どもたちにとっては、畑から野菜を収穫するということが新鮮であるため、とてもはしゃいでいました。住民にもカレー作りをサポートしていただいたため、年配の方が多い久崎住民の方々は、孫が来たかのように楽しそうにしていってました。カレー作りをしてみんなで食べた後、お母さん方にはカフェでゆっくりしていただき、子どもたちは学生ボランティアとともに久崎の名物であるビッグスライダーに乗って遊びました。イベント終了後にとったアンケートでは、全員から「住民の方がとても温かく、また来たい」などの好評な意見をいただくことができ、たいへん満足度の高い交流イベントとなりました。このイベントの参加者は 10 組の親子という少人数でしたが、作用町のことを全く知らなかった方に実際訪れていただき、土地の良さをわかっていただけたということは、久崎の交流人口を増やしていく上で重要な第一歩になったのではないかと感じます。